

14:17 ユダの王ヨアシュの子アマツヤは、イスラエルの王エホアハズの子ヨアシュの死後、なお十五年生きた。

14:18 アマツヤについてのその他の事柄、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。

14:19 エルサレムで人々が彼に対して謀反を企てた。彼はラキシユに逃げたが、人々はラキシユに追っ手を送り、そこで彼を殺した。

14:20 彼らは彼を馬に乗せて運んだ。彼はエルサレムで先祖とともに、ダビデの町に葬られた。

14:21 ユダの民はみな、当時十六歳であったアザルヤを立てて、その父アマツヤの代わりに王とした。

14:22 彼は、アマツヤが先祖とともに眠った後、エイラトを築き直し、それをユダに復帰させた。

14:23 ユダの王ヨアシュの子アマツヤの第十五年に、イスラエルの王ヨアシュの子ヤロブアムが王となり、サマリアで四十一年間、王であった。

14:24 彼は【主】の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムのすべての罪から離れなかった。

14:25 彼は、レボ・ハマテからアラバの海までイスラエルの領土を回復した。それは、イスラエルの神、【主】が、そのしもべ、ガテ・ヘフェル出身の預言者、アミタイの子ヨナを通して語られたことばのとおりであった。

14:26 イスラエルの苦しみが非常に激しいのを、【主】がご覧になったからである。そこには、奴隷も自由な者もいなくなり、イスラ

エルを助ける者もいなかった。

14:27 【主】はイスラエルの名を天の下から消し去ろうとは言うておられなかった。それで、ヨアシュの子ヤロブアムによって彼らを救われたのである。

14:28 ヤロブアムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼が戦いであげた功績、すなわち、かつてユダのものであったダマスコとハマテをイスラエルに取り戻したこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

14:29 ヤロブアムは、彼の先祖たち、イスラエルの王たちとともに眠り、その子ゼカリヤが代わって王となった。

心が高ぶりイスラエルに戦いをしかけて、結局負けたアマツヤに対して、民はこれを退けました。神に従わない指導者は、自分の力でできると勘違いしているのですが、失敗することになります。

ヤロブアムは「主の目の前に悪であることを」行った王ですが、再建や回復を遂げた王でもありました。ここで表されているのは、ただ主のあわれみです。「イスラエルの名を天の下から消し去ろうとは言うておられなかった」主のみこころです。

私たちは主のみわざがあったときに、自分または自分たちの信仰が良かったからだ…と思い込んでしまうことがありますが、必ずしもそうではないことも覚えて、謙遜でありましょう。または改めることは、改めましょう。

また主のあわれみに感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

